

高等学校 令和5年度（2学年用）教科

国語 科目 論理国語

教科： 国語 科目： 論理国語

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書：（「論理国語」筑摩書房）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使用とする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関りの中で伝え合う力を高めようとする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨こうとする。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、他者との関りの中で伝え合う力を高められている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
			話・聞	書	読						
1 学 期	「一〇〇パーセントは正しくない科学」 【知識及び技能】 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量をふやす。推論の仕方について理解を深め使う。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「一〇〇パーセントは正しくない科学」 人と世界を結ぶことばの働きを理解する ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう		○	○	「一〇〇パーセントは正しくない科学」 【知識及び技能】 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量をふやしている。推論の仕方について理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		○	○	○	5
	「地図の想像力」 【知識及び技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「地図の想像力」 人と世界を結ぶことばの働きを理解する ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう		○	○	「地図の想像力」 【知識及び技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		○	○	○	5
	定期考査							○	○	○	1
	「物語としての自己」 【知識及び技能】 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 設定した題材に関連する複数の文章を基に、必要な情報を関係づけて自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「物語としての自己」 ことばによって語るといふ行為の意味を考える ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 一人一台端末を活用して、生徒同士の意見の共有・検討をおこなう		○	○	「物語としての自己」 【知識及び技能】 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 設定した題材に関連する複数の文章を基に、必要な情報を関係づけて自分の考えを深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		○	○	○	5
	「物語という欲望」 【知識及び技能】 文や文章の効果的な接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「物語という欲望」 ことばによって語るといふ行為の意味を考える ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう		○	○	「物語という欲望」 【知識及び技能】 文や文章の効果的な接続の仕方について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		○	○	○	5
定期考査							○	○		1	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

国語 科目 発展言語文化

教科： 国語 科目： 発展言語文化 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書：（「言語文化」（大修館書店））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 発展言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
<p>『伊勢物語』『あづま下り』</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 	<p>・指導事項 人との交わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古人の生活や文化について理解を深める。 ○ 古人にととの歌の役割をとらえる。 <p>・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語 315」 補助教材プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1 台端末の活用 等 <p>生徒間の意見の共有・検討を一人1 台端末を活用しておこなう</p>	○	○		<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品の内容や形式について、批評したり討論したりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 	○	○	○	7
<p>『唐宋八家文読本』『雑説』</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使う。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとする。 	<p>・指導事項 文学と社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 寓意を含む文章や、当時の世相を映した物語を読み、社会と文学との関りを考える。 <p>・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「精選漢文」 補助教材プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1 台端末の活用 等 <p>生徒間の意見の共有・検討を一人1 台端末を活用しておこなう</p>	○	○		<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 	○	○	○	7
定期考査					○	○	○		1
<p>「山月記」中島敦</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとする。 	<p>・指導事項 近代小説 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 <p>・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「重要古文単語 315」 補助教材プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1 台端末の活用 等 <p>生徒間の意見の共有・検討を一人1 台端末を活用しておこなう</p>	○	○		<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 	○	○	○	10
定期考査					○	○			1

1 学期

2 学 期	『平家物語』『木曾の最後』 【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 【思考力・判断力・表現力】 ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 語り継がれる歴史 ○文体や表現によって、読者が受ける印象の違いをとらえる ○歴史的な記録と、語り伝えられる物語との違いをとらえる ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう	○	○	○	○	○	○	10
	定期考査								1
	『十八史略』『臥薪嘗胆』 【知識・技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 【思考力・判断力・表現力】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえる。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 現代に生きる言葉 ○故事成語の意味や背景について理解を深める ○作者が話に込めた意図を読み取る ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 「精選漢文」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう	○	○	○	○	○	○	10
	「鞠」阿部公房 【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 現代小説 ○寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう	○	○	○	○	○	○	5
定期考査								1	
「ごころ」夏目漱石 【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 近代小説2 ○人物の関係と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう	○	○	○	○	○	○	10	

3 学 期	『おくの細道』『旅立ち』 【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 【思考力・判断力・表現力】 ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 旅と人生 ○古人の旅の状況についてりかいする ○旅における人々の心情をとらえ、それらがどのように表現されているかを味わう。 ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう	○ ○	【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○ ○ ○	6
	定期考査			○ ○ ○	1	
					合計 70	

府中 高等学校 令和5年度

教科

公民

科目

公共

教科： 公民

科目： 公共

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書： 『詳述公共』（実教出版）

教科 公民

の目標：

【知識及び技能】社会的な事象を理解する上での基礎的な知識および資料を読み取る技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】社会的課題に対して、資料やデータに基づき、自分なりの考えを持つ力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】自分とは立場や環境が異なる人々の視点を想像しつつ、社会的な課題について考える姿勢を身に付ける。

科目 公共

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の社会における社会制度などの背景にある思想や理念を理解した上で、歴史的な資料や法的な文章、経済指標などのデータを正確に読み取る力を身に付ける。	現代の社会的課題に対して、法的な文章や経済指標、過去の思想家の主張などを踏まえた上で自分なりの意見を持つことができる。	社会的な課題に直面している人々の立場に立ち、多角的・多面的な視点で物事を捉えようとする姿勢を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当 時数
1 学 期	第2編 第1章 青年期と自己形成 人間とは何か 青年期と自己形成の課題 職業生活と社会参加 【知識及び技能】 過去の哲学者や心理学者の主張を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分自身の感覚と提示された概念の関連性を表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・青年期の成立および解釈を通して、現代社会における青年期の意義を理解する。 ・実体験を通し、青年期における心理的な変化を考え、青年期における課題の重要性について理解する。 ・青年期における自己形成の過程を理解し、哲学者の視点を通して「自分らしさ」について考える。	【知識・技能】 過去の哲学者や心理学の主張を理解する。 【思考・判断・表現】 自分自身の感覚と提示された概念の関連性を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	4
	第2編 第2章 他者と共生する倫理 ギリシャの思想 人間の自由 個人と社会 【知識及び技能】 過去の哲学者の思想を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 思想がどのように現代の社会に反映されているかを考え、具体例を例示することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の共通点と相違点を考えることを通し、ギリシャ哲学が重視する点とそれぞれの思想の特徴を理解する。 ・ドイツ観念論の思想を通し、多様な「自由」の定義について考察する。 ・社会における「善」のあり方を考えると共に、現代社会の社会制度の背景となる思想を理解する。	【知識・技能】 過去の哲学者の思想を理解する。 【思考・判断・表現】 思想がどのように現代の社会に反映されているかを考え、具体例を例示することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	第2編 第3章 現代の国家と民主政治 人権保障の発展と現代社会 【知識及び技能】 人権の概念が確立されていった歴史を資料を通して理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 思想家の主張について、比較検討をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・民主政治の誕生の歴史を通して、人権の意義や国家のあり方について考える。 ・社会契約説の思想を理解し、現代の政治制度とのつながりについて考える。 ・歴史的な文書を通して、人権の発展について考え、現代における国際化した人権の課題について考える。	【知識・技能】 人権の概念が確立されていった歴史を資料を通して理解する。 【思考・判断・表現】 思想家の主張について、比較検討をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6
	第2編 第4章 日本国憲法と国民生活 基本的人権の保障 人権の広がり 選挙と政党 【知識及び技能】 判例を通して、人権の意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 判例などの資料から人権保障の考え方を読み取ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・基本的人権の保障について、判例や事例を通して理解する。 ・「新しい人権」をめぐる議論について考える。 ・日本の選挙の仕組みと課題、その課題が生まれた背景について理解する。	【知識・技能】 判例を通して、人権の意義を理解する。 【思考・判断・表現】 判例などの資料から人権保障の考え方を読み取ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	8
定期考査			○	○	○	1	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 日本史探究

教科： 地理歴史 科目： 日本史探究 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組
 教科担当者：
 使用教科書：（ 詳説日本史 日本史探究 ）
 教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本や他国、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本や他国、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当 時数
1 学 期	A 単元 黎明期の日本列島と歴史的環境 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解すること 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現すること	黎明期の日本列島と歴史的環境 ・小説日本史図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解すること 【思考・判断・表現】 黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現すること 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	6
	B 単元 歴史資料と原始・古代の展望 【知識及び技能】 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取りとる技能を身に付けること 【思考力、判断力、表現力等】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること	歴史資料と原始・古代の展望 ・小説日本史図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取りとる技能を身に付けること 【思考・判断・表現】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	C 単元 古代の国家・社会の展開と画期 【知識及び技能】 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること 【思考力、判断力、表現力等】 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する	古代の国家・社会の展開と画期 ・小説日本史図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること 【思考・判断・表現】 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	14

	D 単元 中世への転換と歴史的環境 【知識及び技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解すること 【思考力・判断力・表現力等】 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること	中世への転換と歴史的環境 ・小説日本史図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解すること 【思考・判断・表現】 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
2 学期	E 単元 歴史資料と中世の展望 【知識・技能】 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること 【思考・判断・表現】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること	歴史資料と中世の展望 ・小説日本史図説 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること 【思考・判断・表現】 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること	○	○	○	36
	定期考査						2
3 学期	F 単元 中世の国家・社会の展開と画期【知識・技能】 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解すること 【思考・判断・表現】 公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること	中世の国家・社会の展開と画期 ・小説日本史図説 ・一人1台端末の活用 等	武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解すること 【思考・判断・表現】 公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	26
	定期考査						1

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史基礎

教科： 地理歴史 科目： 世界史基礎 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 1 学年 組～ 組
 教科担当者：
 使用教科書： （ 詳説世界史 世界史探求 ）
 教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
地球環境からみる人類の歴史 【知識及び技能】 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。	人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	地球環境からみる人類の歴史 【知識及び技能】 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現できている。	○	○		5
古代文明の歴史的特質 【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の歴史的特質を構造的に捉えることができることに気付く。	生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、生きる力を身に付けることができるよう指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	古代文明の歴史的特質 【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の歴史的特質を構造的に捉えることができることに気づいている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
諸地域の歴史的特質 【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについている諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気付く。	秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	諸地域の歴史的特質 【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについている諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気づいている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>諸地域の歴史的特質</p> <p>【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについての諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共生の定期考査</p>	<p>秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を指導する。</p> <p>・教科書、図録、用語集の活用</p> <p>・一人1台端末の活用 パワーポイント作成</p>	<p>諸地域の歴史的特質</p> <p>【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解できている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについての諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現できている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共生に気づいている。</p>	○	○	○	12
	<p>【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。</p>	<p>交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して指導する。</p>	<p>【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現できている。</p>	○	○		14
				○	○		1
3 学 期	<p>結び付くユーラシアと諸地域</p> <p>【知識及び技能】 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共生に気付く。</p> <p>定期考査</p>	<p>西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に指導する。</p> <p>・教科書、図録、用語集の活用</p> <p>・一人1台端末の活用 パワーポイント作成</p>	<p>結び付くユーラシアと諸地域</p> <p>【知識及び技能】 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解できている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現できている</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共生に気づいている。</p>	○	○	○	16
				○	○		1

高等学校 令和5年度

教科

数学

科目 数学Ⅱ

教科： 数学

科目： 数学Ⅱ

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書： (NEXT 数学Ⅱ 【数研出版】)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】 数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、1次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。	第2章 第1節 複素数と2次方程式の解	【知識・技能】 ◎複素数に関する用語の定義および複素数の相等の定義を理解している。 ◎複素数の加法、減法、乗法の計算ができる。 ◎共役複素数の定義を理解し、それを利用して複素数の除法の計算ができる。 ◎負の数の平方根について理解し、それらを	○	○	○	8
	高次方程式を、因数分解などの方法でより低い次数の方程式に帰着することで解いたり、その解について考察したりできるようにする。	第2章 第2節 高次方程式	【知識・技能】 ◎剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割った余りを求めたり、余りから係数を求めたりできる。 ◎因数定理について理解し、それを利用して高次式を因数分解できる。 ◎因数分解を利用して、高次方程式を解くことができる。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	座標や式を用いて、点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにし、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第3章 第1節 点と直線	【知識・技能】 ◎数直線上の2点間の距離を求めることができる。 ◎数直線上の内分点、外分点の座標を求めることができる。 ◎座標平面上の2点間の距離を求めることができる。 ◎座標平面上の線分の内分点、外分点の座標	○	○	○	7
	座標や式を用いて、円についてその性質を数学的に表現できるようにし、直線との関係、円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。 図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識し、軌跡の方程式が求められるようにする。また、不等	第3章 第2節 円 第3章 第3節 軌跡と領域	【知識・技能】 ◎中心の座標と半径から円の方程式を求めることができる。また、円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。 ◎x, yの2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ◎3点を通る円の方程式を求めることができる。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1	
2 学 期	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し、それらを多面的に考察できるようにする。	第4章 第1節 三角関数	【知識・技能】 ◎一般角について理解し、一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりできる。 ◎弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算ができる。また、動径が表す角について弧度法で考えることができる。 ◎扇形の弧の長さや面積を、公式を用いて求	○	○	○	10
	加法定理および加法定理から導かれる様々な定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第4章 第2節 加法定理	【知識・技能】 ◎加法定理を利用して、正弦、余弦の値を求めることができる。 ◎加法定理を利用して、正接の値を求めることができる。 ◎正接の加法定理を利用して、2直線のなす鋭角を求めることができる。 ◎2倍角の公式を利用して、三角関数の値を求	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。	第5章 第1節 指数関数	【知識・技能】 ◎指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。 ◎累乗根の定義や性質を理解し、累乗根の値を求めたり計算したりすることができる。 ◎指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算を	○	○	○	9
対数の定義とその性質を理解し、対数関数、特に常用対数を事象の考察に活用できるようにする。	第5章 第2節 対数関数	【知識・技能】 ◎指数と対数を相互に書き換えることができる。 ◎対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ◎対数の性質に基づいて、種々の対数の値の計算ができる。 ◎底の変換公式を適用することができる。	○	○	○	10	

	定期考査			○	○		1
3 学 期	微分係数や導関数の意味について理解し、多項式で表された関数の導関数が求められるようにする。また、関数のグラフの接線が求められるようにする。	第6章 第1節 微分法と導関数	【知識・技能】 ◎平均変化率の定義を理解し、それを求めることができる。 ◎関数の極限値の意味を直感的に理解し、それを求めることができる。 ○定義に従って関数の微分係数を求めることができる。 ◎微分係数の図形的な意味を理解し、接線の	○	○	○	11
	導関数を用いて、関数の値の増減が調べられるようにする。また、それを用いて関数のグラフをかいたり、さらにグラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。不定積分や定積分について理解し、それらの有用性を認識するとともに、定積分を用いてグラフで囲まれ	第6章 第2節 関数の値の変化 第6章 第3節 積分法	【知識・技能】 ◎導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 ◎導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ◎関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ◎導関数を利用して、関数の最大値・最小値	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1 合計 105

高等学校 令和5年度

教科

数学

科目 数学C

教科： 数学

科目： 数学C

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 3 組～ 5 組

教科担当者：

使用教科書： (NEXT 数学C 【数研出版】)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】 数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学C

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	第1章 第1節 ベクトルとその演算	【知識・技能】 ○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ◎ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し、図の中から探すことができる。 ○ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。 ◎ベクトルの和の計算ができる。 ○ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。 ◎ベクトルの差の計算ができる。 ○ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。 ◎ベクトルの実数倍の性質をもとに、ベクトルの演算ができる。 ◎ベクトルの平行条件を理解し、平行なベク	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	第1章 第1節 ベクトルとその演算 第1章 第2節 ベクトルと平面図形	【知識・技能】 ○内積が実数であることを理解している。 ◎ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 ◎成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。 ◎成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し、成分を定めることができる。 ○三角形の面積がベクトルを用いて求められる。 ○点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ◎ベクトルを点の位置ベクトルで表すことが	○	○	○	10
定期考査				○	○		1
2 学 期	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	第1章 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間ベクトル	【知識・技能】 ○位置ベクトルがある条件を満たすような点全体の集合がある図形となることを理解している。 ◎直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。 ◎通る1点と法線ベクトルから直線が定まることを理解し、具体的に直線の方程式を求めることができる。 ◎円のベクトル方程式から、その中心の位置ベクトルや半径を求めることができる。 ◎空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ◎空間の点と原点との距離が求められるようになる。 【思考・表現・判断】	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	第2章 空間ベクトル	【知識・技能】 ○平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している。 ○空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ◎空間図形において、ベクトルの和や差を考えることができる。 ◎空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。 ◎ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。	○	○	○	10

	定期考査			○	○		1
3 学 期	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	第2章 空間ベクトル	【知識・技能】 ○位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 ◎座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。 ◎座標軸に垂直な平面の方程式が求められる	○	○	○	10
	数学ⅠAⅡBCの総合演習	数学ⅠAⅡBCの総合演習	【知識・技能】 ○これまで学習した内容から、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ○様々な分野の知識を相互に関連させながら、問題を解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○積極的に問題演習に取り組もうとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
						合計	70

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科： 理科 科目： 物理基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 3 組～ 5 組

教科担当者：

使用教科書：（ 物理基礎 数研出版 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物や現象に対する興味を持ち、原理・法則を基に理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験、観察に関する基本的な知識・技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象の中に法則性を見出し、法則性をもとに自然をとらえ、得られた結果を他人に説明できるよう表現力を身に付けさせる。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に興味を持ち、奇襲の知識などで理解しようとする態度を養う。その際に、他人と協力し合って探求する姿勢を育てる。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然の事物・現象に関わり、物理の見方・考え方を働かせ、法則によって理解したり、観察・実験を通して理解しようとする態度や技能を身に付けるようにする。	教科にしばられず、さまざまな事物・現象に興味を持ち、物理との関連を見いだして物理的に理解を深めそれを表現できる力を養う。	物理の基本的な知識や考え方を、きちんと理解しようとする態度を養う。その際、身近な級友と協力し合う姿勢を育てる。さらに、日常的に社会と教科の関連に興味を持たせる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 【知識及び技能】 物体の運動を定量的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物体の運動を式やグラフで表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習したことを、日常生活の運動にあてはめて考える。	・指導事項 物体の運動を理解するための物理量（速度等）の定義をきちんと理解させる。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 速さと速度の区別ができる。相対速度と速度合成が区別できる 【思考・判断・表現】 グラフから運動を想像できる 速度合成がベクトル合成であることを理解できる 【主体的に学習に取り組む態度】 グラフから平均の速度と瞬間の速度が理解できる 周囲の人と協力して疑問を解決する		○	○	○	4
	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 2. 加速度 3. 落体の運動 【知識及び技能】 物体の運動を定量的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物体の運動を式やグラフで表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習したことを、日常生活の運動にあてはめて考える。	・指導事項 直線運動に関して、速度の変化する運動をグラフや式を用いて理解する。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 加速度により、速度が変化する運動を理解する。式やグラフから、定量的に運動を理解する。 【思考・判断・表現】 式やグラフから、具体的な運動を想像できる。速度や加速度が負になる運動について、具体的な運動と関連できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 具体的な運動を、グラフや式で表現しようとする。 周囲の人と協力して疑問を解決する。		○	○	○	6
	定期考査				○	○	○	1
	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 1. 力とのはたらき 2. 力のつり合い 【知識及び技能】 力の性質、力の表現方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 力のはたらき、力のつり合いの関係を理解し判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 力のつり合いを、日常生活に見られる構造物にあてはめて考える。	・指導事項 力の性質、力の表現方法を理解させる。物体に、複数の力が作用しつり合う場合の条件を知り、つり合うかどうかの判断ができるようにする。さまざまな種類の力について理解する。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 力の定義が分かる。力の表現方法が分かる。力がつり合う条件が分かり、力のつり合いについて判断できる。 【思考・判断・表現】 力のつり合いを保つため、加える豊一からについて求められる。力のつり合いを保つための構造を推測できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 構造物に作用する力のつりあいについて興味を持ち、自ら調べる。演習問題に積極的に取り組む。 周囲の人と協力して疑問を解決する。		○	○	○	6
	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 【知識及び技能】 力の性質、力の表現方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 力のはたらき、力のつり合いの関係を理解し判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 力のつり合いを、日常生活に見られる構造物にあてはめて考える。	・指導事項 力が物体の運動に及ぼす効果を理解させる。力の加わり方によって、物体に現れる運動の違いがあることを理解する。特に、面から受ける摩擦力や、液体、気体から受ける力の特徴から、物体の運動に与える影響を知る。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 力が物体の運動に与える影響が分かり、力の特徴から、物体に生じる運動が予想できる。 【思考・判断・表現】 物体に作用する具体的な力から、物体に生じる運動を予想できる。特に、摩擦力や空気抵抗を受ける場合の運動について、その運動が予想でき、他人に説明ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常的に目にする運動を、運動の法則にあてはめて考える。乗り物について、運動の法則をあてはめて理解する。 周囲の人と協力して疑問を解決する。		○	○	○	6
定期考査				○	○	○	1	

2 学 期	<p>第1編 運動とエネルギー</p> <p>第3章 仕事と力学的エネルギー</p> <p>第2編 熱</p> <p>第1章 熱とエネルギー</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>エネルギーに関して、力学的エネルギーと熱エネルギーについて理解し、簡単な計算ができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>力学的エネルギー保存の法則や熱量保存が成立する条件を理解し、物体の運動について力学的エネルギーから理解できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>日常生活の運動に関して、力学的エネルギーや熱の性質で説明しようと試みる。</p>	<p>・指導事項</p> <p>力学的エネルギーについて、基本事項を理解する。保存力を理解し、力学的エネルギー保存の法則で現象を説明できるようにする。</p> <p>力学的エネルギーが保存しない場合には、熱現象をとまなうことが多いことを理解した上で、熱の性質を調べる。</p> <p>・教材</p> <p>教科書、問題集、プリント</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> <p>授業スライドの表示</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>運動の法則から力学的エネルギーを導ける。力学的エネルギー保存の法則をあてはめて、物体の運動について計算できる。熱現象を定量的に理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>力学的エネルギーから物体の運動を説明できる。日常生活の運動の中から、力学的エネルギー保存の法則をあてはめて説明できる現象を探し出せる。可逆変化、不可逆変化を熱現象から説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>日常生活で見聞きする物体の運動を、力学的エネルギーで説明しようと試みる。日常の現象を熱現象の特徴から理解しようと試みる。</p> <p>周囲の人と協力して疑問を解決する</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	<p>第3編 波</p> <p>第1章 波の性質</p> <p>第2章 音</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>波の現象について理解し、簡単な計算ができる。音に関して波の性質から説明できる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>波動現象と物体の運動と共通な点、異なる点を理解する。音の持つ特徴と波動現象を関連して理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>日常生活の波動現象や音の性質に関して、波の性質で説明しようと試みる</p>	<p>・指導事項</p> <p>直線的に伝わる波を中心にして、波に特有な現象・性質（波の独立性・重ね合わせの原理）を中心に理解させる。音に現れる現象を、波の性質から説明できるようにする。</p> <p>・教材</p> <p>教科書、問題集、プリント</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> <p>授業スライドの表示</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>波動現象と物体の運動に関して、共通点と異なる点を理解する。音の現象に関して、波の性質から理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>物体の運動と異なる波動現象の特徴を、合理的に説明できる。音が持つ、波動的性質を用いて音を操作する工夫を思いつく。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>波動に特徴的な現象を日常生活の中から見つけ出す。音に関わる現象を波の性質から説明しようと試みる。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	<p>第4編 電気</p> <p>第1章 物質と電気</p> <p>第2章 磁場と交流</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>電気磁気に関する簡単な理解と計算ができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>電流に関する現象を電子の動きから理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>電気に関する知識を、日常生活にあてはめて考えられる</p>	<p>・指導事項</p> <p>電磁気に関する基本的な知識を、広く学ばせる。電磁気に関する知識を関連付けさせて日常利用する電力について理解を深める。</p> <p>・教材</p> <p>教科書、問題集、プリント</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> <p>授業スライドの表示</p> <p>授業内容に関する調べ学習</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>基本的な電気の法則を用いて、電気回路について理解する。電流に関して自由電子の流れから理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>電力を送るときに高圧送電する理由を理解する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>電力に関わる社会的問題などについても、興味を持って調べる。</p>	○	○	○	17
	<p>第5編 物理学と社会</p> <p>第1章 エネルギー利用</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>エネルギーの性質と社会的なエネルギー問題を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>エネルギー問題を物理の法則～理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>積極的に、学習内容を社会的な問題解決に利用しようとする。</p>	<p>・指導事項</p> <p>エネルギーとエネルギー資源を区別して理解する。エネルギー資源からエネルギーを取り出す工夫について理解させる。</p> <p>・教材</p> <p>教科書、問題集、プリント</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p> <p>授業スライドの表示</p> <p>授業内容に関する調べ学習</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>エネルギーとエネルギー資源を区別して理解し、現代におけるエネルギー問題を説明できる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>自分なりのエネルギー問題の解決策を考え、他人に説明できるようにする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>エネルギーに関わるさまざまな問題を、主体的に調べその解決策を科学的に考察する。</p>	○	○	○	2
定期考査			○	○	○	1	
						合計	
						70	

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

教科担当者：

使用教科書：（第一学習社『高等学校 生物基礎』）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の物事・現象に対する概念や原理・法則の理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な知識・技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の物事・現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察などを行い、得られた結果をもとに分析および考察し思考力・判断力・表現力を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の物事・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎 の目標：

Table with 3 columns: 【知識及び技能】, 【思考力、判断力、表現力等】, 【学びに向かう力、人間性等】. Content describes learning objectives for biological phenomena and scientific inquiry.

Main curriculum table with columns: 単元の具体的な指導目標, 指導項目・内容, 評価規準, 知, 思, 態, 配三時数. It details weekly lessons across 1st, 2nd, and 3rd semesters, covering topics like cell structure, photosynthesis, and immunity.

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 理科 科目 化学

教科: 理科 科目: 化学 単位数: 3 単位

対象学年組: 第2学年 3組~ 5組

教科担当者:

使用教科書: (東京書籍 「化学 Vol.1.理論編 Vol.2物質編」)

教科 理科 の目標:

【知識及び技能】 自然の事物や現象に対する概念、原理・法則の理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な知識・技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象の中に問題を見出し、目的意識をもって実験・観察などを行い、得られた結果をもとに分析および考察し、思考力・判断力・表現力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学 の目標: 化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにす	化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第0編 人間生活のなかの化学 第1編 物質の状態 第1章 物質の状態 第2章 気体の性質	物質の三態 気体・液体間の状態変化	【知識及び技能】 ・物質の状態とその変化を、身近な例と関連付けて表すことができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・物質の沸点、融点について、分子間力(水素結合やファンデルワールス力)や化学結合と関連付けて考えることができる。	○	○		6
	【知識及び技能】 ・物質の状態とその変化を、構成粒子の存在状態とエネルギーの関係について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・物質の沸点、融点を分子間力(水素結合やファンデルワールス力)や化学結合と関連付けて考えることができる。	気体の性質 気体の法則 混合気体 理想気体と実在気体	【知識及び技能】 ・気体の各法則(気体の体積と圧力や温度との関係や、ボイル-シャルルの法則)について理解し、適切に扱うことができる。 ・気体の状態方程式の意味を理解し、適切に扱うことができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・気体の性質について、図やグラフの説明を理解することができる。 ・気体定数と気体の状態方程式、分子量の関係や混合気体における分圧の法則について考え、適切に計算することができる。 ・実在気体と理想気体の違いについて考えることができる。	○	○	○	12
	【知識及び技能】 ・気体の性質(気体の体積と圧力や温度との関係や、ボイル-シャルルの法則)について理解することができる。 ・気体の状態方程式がわかる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・気体の法則について考えることができる。 ・気体定数と気体の状態方程式、分子量の関係や混合気体における分圧の法則について考えることができる。 ・実在気体と理想気体の状態方程式について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体の性質に関して調べようとする。	【実験 気体の分子量測定】	【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体の性質に関して自ら調べようとしている。 ・気体の分子量測定の実験に積極的に参加し調べようとしている。	○	○		1
	定期考査			○	○		1
	第3章 溶液の状態 第4章 固体の構造	溶解 稀薄溶液の性質 コロイド 【実験 コロイド】	【知識及び技能】 ・希薄溶液の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など)について理解している。 ・コロイドに関する基本的な用語を抑えるとともにコロイド溶液の性質について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・溶媒と溶質に注目し、溶液の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など)について考えることができる。 ・コロイドの大きさをもとにコロイド溶液の性質を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コロイド溶液の性質について調べようとする。	○	○	○	10
	【知識及び技能】 ・希薄溶液の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など)について理解している。 ・コロイド溶液の性質について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・希薄溶液の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など)について考えることができる。 ・コロイドの大きさをもとにコロイド溶液の性質を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コロイド溶液の性質について調べようとする。	結晶 金属結晶の構造 イオン結晶の構造 分子結晶と共有結合の結晶	【知識及び技能】 ・各結晶の単位格子について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・各結晶の単位格子をもとに結晶の構造について考えることができる。	○	○		8
	定期考査						1

2 学 期	第2編 化学反応とエネルギー 第3章 化学反応と熱・光 第4章 電池と電気分解	反応とエンタルピー ヘスの法則 光とエネルギー 【実験 反応エンタルピー】	【知識及び技能】 ・エンタルピーの概念について理解している。 ・ヘスの法則の意味を理解している。 ・結合エネルギー（結合エンタルピー）について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・反応前後におけるエンタルピー変化から、化学反応における発熱や吸熱について考えることができる。 ・ヘスの法則をもとに未知のエンタルピー変化について考え、求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ヘスの法則を使ってエンタルピー変化を調べようとする。	○	○	○	10
	第3編 化学反応の速さと平衡 第1章 化学反応の速さ 第2章 化学平衡 第3章 水溶液中の化学平衡	反応の速さ 反応速度を変える条件 反応のしくみ 【実験 反応速度】	【知識及び技能】 ・反応の速さの表し方がわかる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・反応速度に影響を与える要因(濃度、温度、触媒)について理由を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験を通して、反応時間から反応速度を求め、反応速度と濃度や温度の関係を調べようとする。	○	○	○	6
	定期考査						1
	【知識及び技能】 ・化学平衡と平衡移動がわかる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・可逆反応、化学平衡について考えることができる。 ・化学平衡の移動について考えることができる。	可逆反応と化学平衡 平衡の移動	【知識及び技能】 ・化学平衡と平衡移動の原理について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・ルシャトリエの原理をもとに化学平衡の移動について考えることができる。	○	○		6
	【知識及び技能】 ・電離平衡について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・塩の加水分解について電離平衡をもとに考えることができる。 ・緩衝作用について理解し、溶液のpHを計算できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・化学平衡の状態について調べようとする態度が育っている。	電離平衡 塩の水への溶解 【実験 平衡移動と緩衝作用】	【知識及び技能】 ・酸と塩基の電離平衡について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・塩の加水分解について溶液のpHを計算によって求めることができる。 ・緩衝液に、少量の酸や塩基を加えたときのpHの変化を計算によって求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・化学平衡の状態やそのときの各成分の量的関係について調べようとする態度が育っている。	○	○	○	12
定期考査						1	

3 学 期	<p>第5編 有機化合物</p> <p>第1章 有機化合物の特徴と構造</p> <p>第2章 炭化水素</p> <p>第3章 アルコールと関連化合物</p> <p>第4章 芳香族化合物</p>						
	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な有機化合物について知り、特徴と分類方法を理解する。 各種、有機化合物の性質について理解する。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の特徴と分類を考慮することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験を通して、有機化合物の性質や反応、分類や分析の仕方を調べようとする態度を養う。 	<p>有機化合物の特徴</p> <p>構造式の決定</p> <p>飽和炭化水素</p> <p>不飽和炭化水素</p> <p>アルコールとエーテル</p> <p>アルデヒドとケトン</p> <p>カルボン酸</p> <p>エステル・油脂・セッケン</p> <p>【実験 エチレンとアセチレン】</p> <p>【実験 アルデヒド】</p> <p>【実験 カルボン酸とエステル】</p> <p>【実験 セッケン】</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な有機化合物の特徴と分類、名称などを理解している。 飽和炭化水素、不飽和炭化水素の性質を理解している。 アルコールとエーテルについて性質を理解している。 アルデヒドとケトンについて性質を理解している。 カルボン酸について性質を理解している。 エステル・油脂・セッケンについて性質を理解している。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の特徴と分類を官能基をもとに考えることができる。 アルコールの分類や性質とエーテルの性質を考慮することができる。 アルデヒドの性質とケトンの性質について考えることができる。 カルボン酸とエステルの構造や性質について考えることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的な有機化合物の性質や構造を理解し、実験を通して、性質や反応、分類や分析の仕方を調べようとする。 	○	○	○	15
	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な芳香族化合物について理解する。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な芳香族化合物について構造を理解し、性質や反応を考慮することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験を通して、基本的な芳香族化合物の反応や性質について調べようとする態度を養う。 	<p>芳香族炭化水素</p> <p>フェノール類と芳香族カルボン酸</p> <p>芳香族アミンとアゾ化合物</p> <p>芳香族化合物の分離</p> <p>【実験 芳香族炭化水素①】</p> <p>【実験 芳香族炭化水素②】</p> <p>【実験 芳香族アミンとアゾ化合物】</p> <p>【実験 アセチルサリチル酸とアセトアニリド】</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 芳香族化合物の名称や構造式、性質について理解している。 芳香族炭化水素の性質について理解している。 フェノール類と芳香族カルボン酸について性質を理解している。 芳香族アミンとアゾ化合物について性質を理解している。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素の構造、性質や反応を考慮することができる。 酸素を含む芳香族化合物(フェノール類、芳香族カルボン酸など)の構造、性質や反応について考えることができる。 窒素を含む芳香族化合物(芳香族アミンなど)を考慮することができる。 有機化合物の性質を利用し、混合溶液の分離を考慮することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的な芳香族化合物の性質や構造を理解し、実験を通して、性質や反応、分類や分析 	○	○	○	15
定期考査						1	
						合計	
						105	

年間授業計画 様式

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書：（現代高等保健体育・ステップアップ高校スポーツ）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】保健や体育で得た知識と技能を活用し、生涯にわたり率先、また適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会や健康、自己の課題を発見し、適切に判断・行動ができる思考力等を高める。

【学びに向かう力、人間性等】自己の体力や健康について課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に取り組む。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。	実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。	率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	オリエンテーション・スポーツテスト（男女） 授業の諸注意・ラジオ体操の確認、スポーツテスト（反復横とび・立ち幅跳び・長座体前屈・上体起こし・握力・ハンドボール投げ・50m走・シャトルラン）	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	6
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	陸上競技（男女） 跳躍（走り幅跳び） ・ウォーミングアップの方法 ・基本ドリル ・計測（実測での計測、踏切線での計測）	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	12
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	バドミントン（男女） ・基礎打ち （ハイクリアー、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、プッシュ、スマッシュ） ・シングルスゲーム（リーグ戦）	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	12
2 学 期	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	サッカー（男女） ・リエンション（種目の特性、安全面の留意点及び施設の使用方法等について説明。ゲーティング、ルール説明） ・リフティング、トラッピング、ドリブルの練習 ・キック練習（インサイドキック、インステップキック、アウト	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	7
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	ソフトボール（男女） ・キャッチボール ・トスバッティング ・ノックによる守備練習 ・試合	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	7
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	器械体操（男女） ・前転、後転、開脚前転、開脚後転、倒立、伸膝前転、伸膝後転 ・実技テストに向けての個人練習	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	14

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

教科担当者：

使用教科書：（現代高等保健体育・図説現代高等保健）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】保健や体育で得た知識と技能を活用し、生涯にわたり率先、また適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会や健康、自己の課題を発見し、適切に判断・行動ができる思考力等を高める。

【学びに向かう力、人間性等】自己の体力や健康について課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に取り組む。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
主体的に学んだ知識や技能を実生活で生かし、情報活用能力を育む。	個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見できる。	課題の解決に向けた学習に主体的に取り組む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 【知識及び技能】 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 【知識及び技能】 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4

	<p>6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康</p> <p>【知識及び技能】 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
2 学 期	<p>8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活</p> <p>【知識及び技能】 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	4

<p>1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備</p> <p>【知識及び技能】 ・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	6
<p>5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動</p> <p>【知識及び技能】 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	8
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>3 学 期</p> <p>7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 様々な保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加</p> <p>【知識及び技能】 ・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末</p>	<p>【知識・技能】 ・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	3
<p>定期考査</p>			○	○		1
合計						35

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 芸術科 科目 音楽Ⅱ

教科：芸術科

科目：音楽Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～ 7組

教科担当者：

使用教科書：（ON2）

教科 芸術科

の目標：音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす

【知識及び技能】 小テスト、実技発表会

【思考力、判断力、表現力等】 小テスト、実技発表会

【学びに向かう力、人間性等】 授業への取り組み

科目 音楽Ⅱ

の目標：音楽の基礎を踏まえて、伸びやかな表現を実現する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽の基礎知識を学習し理解を深める 実技の基礎的な奏法などを習得する	音楽の基礎的な事柄を理解する 豊かな表現力を培う	課題に取り組む姿勢 練習に取り組む姿勢 グループの仲間と協力して練習する姿勢

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	単元：ミュージカル鑑賞 【知識及び技能】 ミュージカルの特徴を知る 【思考力、判断力、表現力等】 聴き所を押さえて鑑賞する 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に鑑賞に取り組む	・ミュージカルの特徴を学習する ・バーンスタインの音楽を楽しむ ・ワークシート	【知識・技能】 ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・小テスト ・ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】 ・能動的に鑑賞に取り組んでいるか	○	○	○	12
	単元：ボディーパーカッション 【知識及び技能】 リズム譜を読み取ろう 【思考力、判断力、表現力等】 グループで演奏しよう 【学びに向かう力、人間性等】 協力して練習に取り組もう	・リズム譜を読み取って、グル ープで協力して練習する ・積極的に発表する	【知識・技能】 ・観察による評価、発表会 【思考・判断・表現】 ・発表会 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に発表できたか ・練習の記録ワークシート	○	○	○	14
2 学 期	単元：箏曲 【知識及び技能】 箏の奏法の基礎基本の習得 【思考力、判断力、表現力等】 きれいな音色で伸び伸び演奏しよう 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に課題曲に取り組もう	・練習曲（1）～（5） ・「さくら」後奏付き	【知識・技能】 ・練習曲（5）小テスト 【思考・判断・表現】 ・発表会 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ペアの生徒と協力して練習に に取り組んでいるか	○	○	○	26
3 学 期	単元：器楽合奏 【知識及び技能】 楽器の奏法を身につけよう 【思考力、判断力、表現力等】 アレンジを工夫しよう 【学びに向かう力、人間性等】 協力して練習に取り組もう	・「ラバース・コンチェルト」 「イエスタデイ」「アメリカ」 「アメージンググレイス」他	【知識・技能】 ・楽器の奏法の習得 【思考・判断・表現】 ・発表会 【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループで協力して練習して いるか観察 ・練習の記録ワークシート	○	○	○	18

高等学校 令和5年度（2学年用）

外国語

英語コミュニケーションⅡ

教科：外国語

科目：英語コミュニケーションⅡ

単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

教科担当者：

(7組：入倉)

使用教科書：(CREATIVE English Communication II (第一学習社))

教科 外国語

の目標：

【知識及び技能】

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 英語コミュニケーションⅡ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	Lesson1 Voice for Action	<題材内容とねらい> ・国連ユース気候サミットの参加者の活動とメッセージを的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分が模擬サミットに参加したと想定して、環境保護のためにしたい活動を説明することができる。	<文型・文法事項> ・さまざまな助動詞、分詞構文（現在分詞）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・英文の内容に応じた音読をすることができる。 <場面・状況など> ・模擬サミットの特徴を理解し、聞き手に配慮して、環境保護のためにしたい活動について説明しようとしている。	○	○	○	14
	Lesson 2 Aren' t You Sleepy?	<題材内容とねらい> ・動物の睡眠についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分の睡眠習慣について説明することができる。	<文型・文法事項> ・受け身の分詞構文、副詞節中の〈S+be〉の省略について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・未知語の意味を推測して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・インタビューにおける注意点を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、わかりやすく自分の睡眠習慣について説明しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	Lesson 3 Becoming Attractive to Your Audience	<題材内容とねらい> ・アスリートのスピーチに見られる特徴についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、高校生活で達成したいことについてスピーチをすることができる。	<文型・文法事項> ・関係代名詞の非制限用法、仮定法過去・仮定法過去完了について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開（列挙）に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・スピーチにおける注意点を理解しようとしている。 ・効果的なスピーチにするための方法を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすくスピーチをしようとしている。	○	○	○	13
	Lesson 4 Are You Prepared?	<題材内容とねらい> ・自然災害と防災についての的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、防災グッズについてプレゼンテーションをすることができる。	<文型・文法事項> ・助動詞+have+過去分詞、完了不定詞について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開（例示・追加）に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・効果的なプレゼンテーションにするための方法を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすくプレゼンテーションをしようとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	

2 学 期	Lesson 5 The Era of Beautiful Harmony	<題材内容とねらい> ・日本および世界の元号についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・日本の俳句の英訳をすることができる。	<文型・文法事項> ・関係副詞の非制限用法、同格のthatについて理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・同格表現や言い換え表現に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・ディスカッションの役割分担を理解しようとしている。 ・読み手に配慮して、わかりやすい俳句の英訳をしようとしている。	○	○	○	13
	Lesson 6 Actions to Reduce Loss and Waste	<題材内容とねらい> ・フードロス・フードウェイストの問題についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、フードロス・フードウェイストについてのアンケートに質問項目を追加し、その理由を説明することができる。	<文型・文法事項> ・完了形の名詞構文、複合関係詞について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開(対照)に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・英語のアンケートの構成を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、アンケートに質問項目を追加し、わかりやすくその理由を説明しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	Lesson 7 Living with Adventure	<題材内容とねらい> ・南谷真鈴さんの冒険と、彼女のメッセージについての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、自分自身の目標や行動計画を説明することができる。	<文型・文法事項> ・さまざまな仮定法、否定語+倒置について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・やり取りをうまく継続させることができる。 <場面・状況など> ・プレゼンテーションの注意点を理解し、聞き手に配慮して、わかりやすく自分自身の目標や行動計画を説明しようとしている。	○	○	○	14
	Lesson 8 Power to the People!	<題材内容とねらい> ・電池の発展についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、創造的であるためには何が必要かを説明することができる。	<文型・文法事項> ・独立不定詞・独立分詞構文、if…以外が条件を表す仮定法について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・文章の展開(時間的順序)に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・ユーザーマニュアルの情報の特徴を理解しようとしている。 ・聞き手や読み手に配慮して、創造的であるためには何が必要かをわかりやすく説明しようとしている。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1	
3 学 期	Lesson 9 Traveling This Beautiful Planet	<題材内容とねらい> ・オーバーツーリズムの問題と新しい旅行様式についての確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、旅行の写真をソーシャルメディアに上げるべきかどうかについて、自分の意見を複数のパラグラフで書くことができる。	<文型・文法事項> ・前置詞+関係代名詞、強調構文について理解を深め、これらを適切に活用することができる。 <五領域の知識・技能> ・パラグラフごとの役割に注意して、英文を理解することができる。 <場面・状況など> ・ソーシャルメディアの特徴を理解しようとしている。 ・旅行の写真をソーシャルメディアに上げるべきかどうかについて、読み手に配慮して、自分の意見を複数のパラグラフでわかりやすく書くようとしている。	○	○	○	14
	Optional Lesson 1 May I Have Your Autograph?	<題材内容とねらい> ・ストーリーの展開を的確に理解し、その内容を整理して伝えることができる。 ・整理した内容を活用して、ストーリーに関連する自分の考えを話すことができる。		○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
							合計
							140

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科

外国語 科目 論理表現II

教科: 外国語

科目: 論理表現II

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 7 組

教科担当者:

使用教科書: (MY WAY Logic and Expressinon II 三省堂)

教科 外国語

の目標:

【知識及び技能】英語の4技能に必要な基本的な統語的知識と表現方法の定着

【思考力、判断力、表現力等】的確な表現を実現末うために重要な試行的な判断力の養成

【学びに向かう力、人間性等】真摯な態度で他言語の習得と他文化を理解する

科目 論理表現II

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の4技能に必要な基本的な統語的知識と表現	的確な表現を実現末うために重要な試行的な判断力の	真摯な態度で他言語の習得と他文化を理解する

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書						
単元 Lesson 1 【知識及び技能】助動詞の表現 (used to should had better would など) 【思考力、判断力、表現力等】好きな場所を紹介する発表の原稿 【学びに向かう力、人間性等】これまでの経験についての会話	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1 台端末の活用 等	○					自分の経験について、情報や自分の考え、気持ちなどを伝えるために必要となる表現の意味や働きを理解している。 予定について、情報や自分の考え、気持ちなどを伝えるために必要となる表現の意味や働きを理解している。	○	○	○	5	
単元 Lesson 2 【知識及び技能】印象深かった授業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】お互いによく理解できるように、印象深かった授業について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく合っている。	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書、プリント ・一人1 台端末の活用 等			○	○	○	最新のものについて、情報を整理し、多様な語句や文を用いて詳しく話して紹介する技能を身に付けている。 お互いによく理解できるように、週末の予定について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合おうとしている。	○	○	○	7	
定期考査								○	○	○	1	
単元 Lesson 3 【知識及び技能】いろいろな科学技術や将来の社会の状況と職業などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】いろいろな科学技術について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】社会の状況と職業について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書くことができる。	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1 台端末の活用 等	○		○		○	印象深かった授業について、受動態や、授業で行われている内容を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う技能を身に付けている。 読み手によく理解してもらえるように、贈り物について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書いている。	○	○	○	8	
単元 Lesson 4 【知識及び技能】日本の文化について、不定詞(進行形・受動態・完了形の不定詞、原形不定詞)や日本文化を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】知覚動詞、使役動詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を言ったり書いたりする。	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1 台端末の活用 等				○	○	○	日本の文化について、知覚動詞、使役動詞や日本文化を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、詳しく発表する技能を身に付けている。 聞き手によく理解してもらえるように、日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを整理し、多様な語句や文を用いて詳しく発表している。	○	○	○	6
定期考査								○	○	○	1	

1 学期

